

SJAC講演会（宇宙ビジョン2050）

（一社）日本航空宇宙工業会は、去る10月8日（火）、当工業会に於いて（一社）日本航空宇宙学会から4名の講師をお招きして、第2回SJAC講演会を実施した。内容は、「JSASS宇宙ビジョン2050」である。ここに講演の概要を紹介する。

（1）JSASS宇宙ビジョン2050の策定

日本航空宇宙学会（JSASS:The Japan Society for Aeronautical and Space Sciences）は1934年5月に日本航空学会として設立され、1968年7月に宇宙分野を含めた日本航空宇宙学会に改称された。2018年にはちょうどその50年目に当たることから学会で初めて宇宙長期ビジョン「JSASS宇宙ビジョン2050」が検討・策定されることとなった。

（2）講演会

「JSASS宇宙ビジョン2050」は、2050年にあるべき宇宙活動の姿を描いた「ビジョン」と、ビジョンを達成するための「ロードマップ」で構成されている。「ロードマップ」には技術開発の道筋を示す「宇宙科学技術ロードマップ」と、法律や国際関係などの人文社会科学の課題を念頭においた「宇宙総合政策ロードマップ」の二つが含まれており、その全文（41ページ）は下記リンクからご覧いただける。

(<https://www.jsass.or.jp/society/82/>)

講演会には、学会から4名の講師の方にお越しいただき、それぞれのご講演の後、会場からの質問にもお答えいただけるパネルディスカッションが行われた。

まず、渡辺重哉氏（JAXA、第51期日本航空宇宙学会会長）から「JSASS宇宙ビジョン2050」の背景の説明があり、続いて上野誠也氏（横浜国立大学、航空宇宙ビジョン委員会委員長）から「JSASS宇宙ビジョン2050の概要」説明、平子敬一氏（慶應義塾大学、宇宙科学技術ビジョン小委員会主査）から「宇宙科学技術ロードマップ」の説明があり、最後に水野素子氏（JAXA、宇宙総合政策ビジョン小委員会主査）から「宇宙総合政策ロードマップ」の説明があった。

その後、会場からの質問に答える形でパネルディスカッションが行われた。主な質疑としては、①海外パートナーとの協力は？⇒米AIAA等との協力の可能性がある、②今後の再使用ロケット、宇宙建築などの開発主体



4名の講師の方（渡辺氏、上野氏、平子氏、水野氏）

は?⇒民間は将来のビジネスを見据えたうえで官民共同になるのでは、③今後の宇宙の利用分野とその資金は?⇒ア)安全保障分野(日本では2008年の宇宙基本法成立により憲法範囲内で利用できることとなったこともあり、

今後プラスの国家予算を期待)、イ)シビル・サイエンス分野(従来通り国家と研究機関の予算)、及びウ)ビジネス分野(民間資金)と考えられる、等があった。



講演会の様子

〔(一社)日本航空宇宙工業会 技術部(宇宙担当)部長 宇治 勝〕